

夢も金もない

高校生が

知ると得する

進路ガイド

石渡嶺司



大切なのは
リスクを
正確に把握して
覚悟を持つこと。

なぜなら
夢は人を
殺しかねない。

「このガイドには綺麗事や嘘がない。
あるのは徹底的に裏付けされた“真実”
のみ。これはただの進路指導ではない。

“真路指導”だ。」

『夢なし先生の
進路指導』**笠原真樹さん推薦!**

© 笠原真樹 / 小学館

大学進学から高卒就職まで、

進路とお金のホンネの話!

夢も金もない高校生が知ると得する進路ガイド

石渡嶺司

星海社

303



はじめに

「台風は良いですよね、進路があって」

以前、講演をした高校の感想文でこんな一文がありました。

誰もがどこかで必ず経験する、進路選択。

特に高校卒業後の進路とは、大学進学なのか、短大・専門学校進学なのか、あるいは高卒就職なのか、いずれにしても、高校卒業後の長い人生を左右する選択になります。

ほとんど知識がない状態で「さあ、進路を選びなさい」と言われても困るわけです。

さらに、高校生は、それまで先生や親に「あれをやれ、これをやれ」と命令される、あるいは、「あれをやるな、これをやるな」と禁止され続け、進路選びになった途端、「進路を自由を選びなさい」と言われるわけです。

「自由に、と言われても分からねえよ！」というのがホンネでしょう。

さらに話をややこしくするのが「夢」です。

「夢を持ちましょう。その夢を実現するために進路を選びましょう」

進路を決める軸として「夢」が重視されるようになったのは2000年代に入ってからです。

2003年には『13歳のハローワーク』（村上龍、幻冬舎）が刊行され、130万部ものミリオンセラーとなり、2020年代の現在でも中学校や高校の図書室にはほぼ必ず、置かれています。

冒頭では、「この本は、好奇心を対象別に分けて、その対象の先にあると思われる仕事・職業を紹介しようという目的で作りました」とあります。

「自分のやりたいことを仕事にする」という発想が合っている人もいます。

しかし、この発想が行き過ぎた結果、一時は、「自分のやりたいことを無理にでも見つけて仕事にすべき」となってしまいました。

「夢」と似たものが、「好きなこと」。

2014年からYouTubeは「好きなことで、生きていく」キャンペーンを開始し、HIKAKINをはじめしゃちょーなど、2024年現在も活躍するYouTuberたちが起用されました。

好きなことを仕事にして、それで稼げるのであればこれほど幸せなことはいえ、

YouTuberを、それも専業でやっていけるのはごく少数です。

好きなことを仕事に、と言われてもどうでしょうか。多くの高校生にとって、好きなこととは趣味レベルでしょう。

夢もはつきりしていないし、好きなことも趣味レベル。それでも、「夢で進路を選べ」と言われ続ければ、無理にでも夢や好きなことで進路を決めるしかありません。

そこで多くの高校生が進路を選ぶのが、看護師などの医療職、スポーツ・漫画・アニメなど自分が好きなことに関連する職業です。特に後者は、憧れる人が多いことから「憧れ系職種」とまとめることもできます。

しかし、「憧れ系職種」を目指した先の現実は、憧れる通りでしょうか。

下の表は、憧れ系職種の平均年収です。

いずれも、低い待遇で苦勞することになります。

もちろん、ごく一部のトップクラスは野球選手でも、声優でもトリマーでも、高い年収・待遇を得ることができません。

しかし、それはあくまでもごく一部であり、専門学校に進学した

動物看護師	312万円
声優	300万円以下
美容師	290万円
エステティシャン	276.9万円
ネイリスト	271.9万円
声優(20代・30代)	100万円以下
会社員	456.6万円
看護師	508.1万円

憧れ系職種の平均年収一覧

VOICIONによる「声優の収入実態調査」、全研本社「2023年6月 最低賃金から見る美容業界の給料調査」、厚生労働省「令和4年度 賃金構造基本統計調査」、国税庁「令和4年分 民間給与実態統計調査」を元に筆者作成

からどうにかなったというよりは、高校以前から努力していて、才能があつた人に限られます。

このように、憧れ系職種のための専門学校に進学しても、そのほとんどは低い待遇で苦しむことになります。

そして、結果的にはその憧れ系職種を諦めて他の職種に転換していく、いうなれば、学費の払い損になりかねません。

憧れ系職種の大半が低待遇で苦しむことは、進路指導やキャリア研究に熱心な高校教員は知っています。2010年代に夢を軸に進路を選ぶことの危険性が指摘され始め、2020年代現在では、「進路で夢を強調しすぎるのは危険」という考え方が広く認識されつつあります。

ところが、この発想が行き過ぎると、今度は「夢なんてくだらない、現実を見ろ」という指導になってしまいます。

「現実を見る」と言われても、その現実が分からないから夢や好きなことで進路選択をしたのに、否定されてはたまりません。

その結果、高校生と教員（あるいは親）が無用の対立をしてしまうこともあります。

そもそも夢を持った高校生はどこまで夢に向かって頑張るべきか、あるいは、現実を見て

夢を諦めるべきなのでしょうか？

高校生の進路選びで話をややこしくするのは、夢だけではありません。

進学するとなるとお金がかかります。

世帯収入の低い世帯であれば、奨学金や修学支援新制度を考えるでしょう。しかし、これらの制度はあまりに複雑。修学支援新制度については、2020年に登場してから2024年に拡充、2025年にさらに変更予定と、高校生どころか教員も理解が追いついていません。

進学にかかるお金の問題、そして進路に関連する夢の問題、それぞれは独立しておらず、つながっています。

ところが、高校の進路指導、あるいは関連する本はその多くを別の問題として取り扱っています。

その結果、本来なら知っておくと得する進路情報を見逃してしまう、というケースが全国各地で頻発しています。

例えば、中学校までは勉強が苦手。だけど、高校から地道に勉強をして、部活や探究の間も頑張つて、「大学でもうちよつと勉強してみたい」と考えた高校生。でも、地元の国公立

大学進学は一般選抜でも総合型・学校推薦型でも難しそう。と、言っても、浪人する余裕はないし私立大学進学も無理そう。

こういう高校生が「夢も金も」となると、最後は大学進学そのものを諦めてしまい、地元
の短大・専門学校進学が高卒就職か、どちらか、というのがよくある話です。

本当にそれでいいの？

国公立大学に編入学できる短大や専門学校（それも公立）が、実は少数ながら日本には存在
します。別の地方からの進学でも、生活費などはそこまで高額ではありません。そこで編入
対策を進めれば4年制大学に編入学が可能ですし、試験に合格すれば国公立大学への編入も
できます。

もちろん、編入学だけではありません。大学進学であっても、短大・専門学校進学であっ
ても、高卒就職であっても、それぞれ知っておくと得する情報は多くあります。その一方で
知らないと高校生が損する落とし穴もまた多く存在します。

本書は「知ると得する」のタイトル通り、進路の選び方から大学進学、短大・専門学校進
学、高卒就職について、そして、それぞれに関するお金の話を解説した進路ガイドです。

第1章では、進路の選び方について、特に夢の取扱い方について解説します。

第2章では、進路の選び方のうち、夢以外の要素について解説します。この章では高校生がネット上でしか見ない、学歴フィルターや大学名差別についても解説しています。

第3章では、お金の面から進路を考えていきます。「高卒就職の方が得」はどこまでホントかウソか、奨学金や修学支援新制度、そして、大卒総合職が対象となる奨学金返済支援制度などについて解説します。

第4章では、知ると得する大学オープンキャンパス・情報収集や学部を選び方について解説します。

第5章では、大学入試について解説します。共通テストや一般選抜、総合型選抜・学校推薦型選抜の変化や高校生が見逃しがちな落とし穴（とその対策）などをまとめました。模試の判定や塾・予備校の選び方についても解説しています。

第6章では、短大・専門学校進学について解説します。短大・専門学校がオープンキャンパスでは絶対に言わない真相、オープンキャンパス・早期出願のワナ、そして、国公立大学に編入できる短大についても解説します。

第7章では、高卒就職について解説します。成績が普通、あるいは平均以下でも明暗が分かれてしまうのが高卒就職です。2人に1人が早期退職する真相や、働くだけで得する企業についても解説します。

本書では基本的に大学進学をおすすめしていますが、大学ではなく短大・専門学校進学や高卒就職についても、どこがポイントとなるのか、知っておくと得する情報を盛り込んでいます。

「夢もないし、金もないし、人生オワタ」

そう嘆く高校生に、進路関連の取材歴22年の私は声を大にして言いたい。

「夢も金もなくても、君の将来、そう捨てたものではないよ」と。

本書の情報は2024年4月時点のものです。

目次

はじめに 3

第1章 高校生が知らないと損する進路と夢の関係 23

夢を巡って真逆の意見 24

夢の効用 24

「夢＝目標」という設定に当てはまる？ 25

無理やりの「夢」で成功した社会人 28

夢の副作用 31

夢を進路と結びつけるかどうかの8分類 32

家族や高校内の評価は問題外 35

エヴァ声優「学校に行く時点で無理」 38

夢と目標の違い 40

目標の途中変更も 42

夢の勘違いは社会人も 43

一度は違う進路でも目指せる 45

高校生で1000冊以上の乱読で小説家に 47

失敗でも作品を完成させたかどうかが分かれ道 49

無関係でも後でつながるキャリア 53

大学受験も必要に 57

「夢なしですが何か？」で十分 58

無しでは困るが欲張られても困る高校のホンネ 59

進路未定なら先延ばしで十分 62

「なにかを諦めるのも悪くないですよ」 65

進路未定でも高校卒業後に変わる 66

進路未定なら大学進学を中心に 72

第1章 おすすめ本 74

第2章

夢以外で進路が選べる 普通の高校生が知ると得する進路の教養

高校生が知らないと損する「総合職と専門職」 78

職業構造も夢との相性も真逆 80

大卒総合職は実績不要の見込み採用 84

工学部からエンタメ企業に就職できた理由 87

幅の広い専門職傾向の学部は7系統 90

コロナ禍でも総合職採用は学生有利 大阪体育大学を例に 95

同じ体育系でも専門学校は壊滅状態に 98

音楽系と医療系では大きく違う 専門職傾向の学部も色々 101

専門職の例外 社会人から目指すパターン 103

得意科目・苦手科目 入試科目と入学後の必要科目は別 105

好きなこと 上には上がいる世界 107

高校生が考える以上に選択肢は多数 110

他学部・大学の講義を受講できる裏技も 113

キャリアはドラクエ型からポケモン型へ 115

第3章 お金の面から進路を考える 123

大卒対高卒 生涯賃金はどうか違う？ 124

「高卒就職の方が得」というウソ 125

「やりたいことがないなら大学進学は無意味」論こそ無意味 128

「奨学金は借金」のホントとウソと 129

奨学金返済の是非は就職が影響 132

予約時はダメ元で申し込む 134

学力基準・家計基準はあくまでも目安 135

入学金特別増額のウソ 136

保証制度は機関保証一択 137

利率の算定方式の選択は無理？ 139

国の教育ローン（日本政策金融公庫）なども検討を 141

修学支援新制度は対象者だと返済なし 142

総合職志向なら奨学金返済支援制度も 145

大学の奨学金く成績優秀なら学費減免も 150

ハマれば大きい民間企業・団体の奨学金 152

学費の高い学部・安い学部 153

卒業までかかり続ける費用 155

高年収でも闇すぎて人生が詰むリスクもく薬学部・歯学部 157

医学部地域枠は「奴隷契約」批判も 161

専業主婦（夫）志向はほとんどが無理 165

併願で辞退だと入学金以外は返還 166

第3章 おすすめ本 170

第4章

知ると得する大学オープンキャンパスと入試動向

173

今や重要イベントの大学オープンキャンパス 174

- そもそも何回行けばいい？ 175
- 時期と学年で性格は変わる 176
- 国公立大学はひとまず予約が吉 177
- 実施パターンも参加の仕方もそれぞれ 178
- 保護者の参加は？ 180
- 交通費補助・長距離送迎バスはどこまで使う？ 181
- 行くと得するプログラム 184
- 面倒でも行きたい相談コーナー 187
- 部活などどうまく調整できない場合 189
- 地方から参加しづらい場合 190
- 志望校候補なら YouTube のチャンネル登録を 191
- 合同説明会や分野別ガイダンスも使える 192
- 情報は古くさい紙媒体からでも 194
- 入試で得する朝日、入試コラムと読売、英語面 196
- 女子大は時代遅れか 200
- 大学の不祥事は入試にマイナス？ プラス？ 201

定員割れ大学はどこからが危険か 205

入学と卒業が別大学で偏差値アップという裏技 207

マイナーだけどお得な二部・夜間 209

当たり外れが大きい専門職大学 211

第4章 おすすめ本 214

第5章 知らないとしんどい大学入試の変化 217

「E判定で人生オワタ」のウソ 218

塾・予備校は学歴よりも経歴とサポート体制 221

潰れたはずの大学入試改革が地味に影響 223

個別の大学入試改革に移行 225

センター試験から激変した共通テスト 226

英語民間試験でプラス評価に 228

文系でも数学必須の大学が増加 230

「情報」は迷走中 232

国公立の小論文・記述式は難化へ 234

甲南大では筆者のコラム登場もWで 236

社説を読んで対策を 237

国立大学理工系学部で女子枠が拡大する理由 240

総合型選抜・学校推薦型選抜く想像以上に難化 242

大学と高校生の「意欲」に違い 244

面接ではさらに深掘り 245

入学前・入学後・卒業後をセットで 247

総合・推薦狙いなら図書館を使い倒せ 250

志望理由書は基本を押さえてから 251

志望理由書のパターンとは 255

第5章 おすすめ本 258

第
6
章

知ると得する短大・専門学校進学

261

短大と専門学校の違いとは？ 262

専門学校は種類も色々 264

短大・専門学校をどう選ぶ？ 265

修学支援新制度の確認校かどうか 267

夢追い系か実業系か 267

中間系は就職できても低水準 269

就職実績の落とし穴 271

専門学校の不都合な真実「大卒者もいる」 274

少子化で危ない短大・専門学校 275

入試時期は大学よりも早くて複雑 277

入試は面接と書類選考が主流 278

焦る専門が頼る早期出願というワナ 280

英語など語学で大卒以上の高年収も 283

国公立大に編入可能な短大 285

おすすめの短大10選 286

おすすめできる専門学校10選＋番外2選 289

第6章 おすすめ本 294

第7章 成績が普通でも明暗分かれる高卒就職 297

高卒就職が誤解される背景は 298

高卒就職の「1人1社制」という慣習 300

複数応募制に転換しても意味がない？ 300

1人1社制を誤解する高校教員も 302

「成績上位でなければ人生オワタ」の誤解 303

「受験失敗で仕方なく」「給料は安くてもいい」という社会のトンデモ誤解 304

問題だらけだからこそ自衛せよ 305

3人に1人が早期退職してしまう理由 307

地味に広がる高卒就職サイトを使う 308

雇用者数の多い企業のサイトを見よう 310

一般公開ありなら早期の見学を 311

合同企業説明会は良い機会 312

企業は選ぶ側と選ばれる側の両方あり 313

仕事と夜間大学を両立させる静岡銀行 315

大型二種免許がなくても見習い採用 316

志望理由書はポジティブに書け 317

本人スルーの情報こそ大事 319

漫画が現実にく 高卒でココイチFC社長に 326

第7章 おすすめ本 332

おわりに 334

注釈および参考文献一覧 338

第1章

高校生が

知らないで損する

進路と夢の関係

○夢を巡って真逆の意見

夢が進路選びの要素となつてゐることは、冒頭でもご紹介しました。

「夢を実現しよう」「夢に向かつて頑張ろう」など、進路選択では前向きなメッセージとともに登場することが珍しくありません。

しかし、一方で夢は高校生を迷わせる、あるいは、惑わせる要素でもあります。理由は簡単で、夢はつきりしている高校生は少数派だからです。

そして、さらにややこしいのは、「夢で進路を選べ」という大人もいれば、その逆、「夢なんかくだらない（または危険）。現実で進路を選べ」という大人もいることです。

どちらもそれなりの根拠を持って話すので、多くの高校生は「どっちだよ？」と、余計に困ることになります。

○夢の効用

まずは「夢」という曖昧でぼんやりとしたものを、もう少しはつきりと分かりやすいものにしていきましょう。

進路選択において「夢」という言葉は多くの場合、「夢⇨目標・ゴール」として使われます。「夢⇨目標・ゴール」と考えて、目的をはつきりさせる方がより前向きになれるよな。

例えば、校庭でランニングをしているとしましょう。何周しても「まだ走れ」「頑張れ」と言われたら、どうでしょうか？ そのうちに疲れ果ててやる気をなくすはずです。

あるいは、無謀な指示をした教員だか、部活の先輩に対して「パワハラで訴える先はどこだろうか」などと考えるかもしれません。

一方、「10周しろ」などゴールがはっきりしていれば話は変わります。ペース配分をどうするかを考える余裕が出て「あと2周でゴールだから」と頑張れるはずです。

このように、夢をはっきりさせると、進路選びも明確になる、これが夢の効用です。

○「夢＝目標」という設定に当てはまる？

ただし、「夢＝目標・ゴール」の発想がうまくいくケースもあればそうではないケースもあります。と言いますか、はっきり言って「そうではないケース」の方が多数派です。

「校庭を10周しろ」と先生に言われれば、高校生のほとんどは走れます（速い・遅いは別として）。それは、「校庭10周」は短期的に達成可能な目標だからです。

それでは、高校卒業後の進路は「短期的に達成可能な目標」でしょうか？

例えば、高校野球の全国大会（甲子園）に出場し実績を残していれば、プロ野球か、すごい選手ならメジャーリーグ、独立リーグや大学野球・社会人野球などに進む可能性が高いです。

こうした人たちの「将来は野球選手になりたい」は、短期的とまでは言わなくても中長期的には達成可能な範囲にある目標になっています。つまり、「夢∥目標」とすることが可能です。

一方で、高校野球の全国大会どころか地方大会の出場経験なし、他のスポーツの実績もなし、「校庭10周」と言われても1周で息が上がってしまう人の「将来は野球選手になりたい」はどうでしょう？

どう考えても、「夢∥目標」とは言えません。むしろ、「夢∥幻」と言った方が適切です。

これは極端な事例ですが、「夢∥目標・ゴール」という前提は、その人が夢に対して努力しており、かつ、実績を残しているケースに限られます。当然ながら、そうした高校生は少数しかいません。

多くの高校生にとって、夢は短期的に達成可能な目標ではなく、どうなるか分からない曖昧なものしかありません。

それでも、進学後の進路選択が限定されにくい大学進学は、「夢∥目標」としても有効となる機会が現代にも多くあります。

俳優・阿部寛あべひろしさんの物まねで有名な都留拓也つるたくやさんは、母親の勧めで公立の中高一貫校に進

学したのち、お笑いサークルの強い千葉大学に進学しました。

都留さんは新聞のコラムで次のように語っています。

「僕の場合、親や先生に言われたことを割と素直に受け入れてその通りにし、結果的に自分がやりたいことに照らしても遠回りになりませんでした。いま進路に迷っている人がいたら、信頼できる人の助言を聞きながら、最後は自分がやりたい道を選んでほしいと言ってあげたいですね^{*1}」

仮に都留さんがお笑い芸人を大学在学中に諦めても、あるいは、大学卒業後にお笑い芸人を目指しつつ途中で断念したとしても、大卒で就職をするなど軌道修正は可能でした。

このような軌道修正がしやすいというメリットが、大学進学には存在します。だからこそ、「夢⇨目標」とするのはそう大きく外れてはいないとも言えます。

一方、高卒就職や短大・専門学校についてはどうでしょうか。

これらは、専門性が高い一方で、大学進学ほど軌道修正がしやすすくないという特徴があります。そのため、「夢⇨目標」として照準を定めてしまうのはいかなものかとも考えられるわけです。

○無理やりの「夢」で成功した社会人

冒頭でも触れたように、夢という概念そのものが非常に曖昧であり、捉え方も様々です。その曖昧さから、夢と進路選択を無理に結びつけてしまうことを、私は「夢Ⅱ目標」説と呼んでいます。

これは、「夢を持ちましょう」「夢に沿った進路選択を」などの指導のように、なにか一つ夢（Ⅱ目標）を決めるべきというものです。

この「夢Ⅱ目標」説を支持する社会人からすれば、「夢を否定するなんて冷たい」とか「10代は無理にでも夢を持つべきだ」など、強い口調で反論がきます。

その根拠は若者の強さ、そして反論者の経験が挙げられます。

まず前者「若者の強さ」。10代・20代のうちに始めたことは困難が伴う反面、若いうちだからこぞできる（あるいは、できた）ということが多分にあります。純粹な思いがある、固定観念がない、（中高年に比べて）体力があるので無理が利く、など、要因は様々。

他ならぬ私もそうです。

前職（編集プロダクション）は超の付くブラック企業で、理不尽な理由で解雇されたのが2003年1月でした。それを奇貨^{きか}として大学関連の書籍刊行を考えて売り込み開始。20社以上断られた後にデビューが決まり、以降22年、大学ジャーナリストとして仕事を続けています。

今思えば、「あれでよく大学ジャーナリストを自称できたよな」と思うほど、知識も勉強量も不足していました。それもこれも若いからこそできたことであり、今なら絶対でできなかった、と思います。多少無謀でも、成功する自信がなくても、一つ夢を持つてがむしゃらに努力することで叶うかもしれない、そんな若さゆえの可能性や強さがあるということは、否定できません。

そして後者、「反論者の経験」ですが、これは「夢＝目標」を無理に決められたことで結果的に得をした経験を意味します。

1990年代以前の日本は経済成長を続けていました。この時期の高卒就職は、成績順などで企業に割り振られる指導が中心です。大卒は現在と同じく自由応募ですが、高卒就職・大卒就職とも夢が軸になることは多くありませんでした。

むしろ、高卒就職を中心として、教員による強制的な割り振りで決まることがほとんどだったのです。

ところが、そうして入社した企業でも、経済成長の恩恵を受けることが多くありました。気が付けばボロボロだった社屋からきれいなオフィスに変わり、給料も上がるということが珍しくなかったのです。

こうした社会人からすれば、「あのとき強制的に割り振られて良かった。だから、悩んでい

るのなら親が介入してあげて、無理にでも目標を定めさせるべきだ」と考えます。そうして、「夢Ⅱ目標」説につながるのです。

なお、日本経済が低成長となった1990年代以降でも、地方を中心に、安定した企業に就職した社会人も同様です。

実は、体育教員にも「夢Ⅱ目標」説に賛成する方が多くいます。これも「結果的には良かった」という自身の経験によりです。

高校の運動部指導者が大学のスポーツ推薦受験を決める際は、運動部での成績（正選手か補欠かなどを含む）順に割り振ります。2000年代以降は本人の意向を取り入れるところが増えているとはいえ、強制的な割り振りである構造は変わりません。

他にも、「進路やキャリアの知識が乏しい高校生に進路選びを任せても話が前に進まないの

で、教員や親が無理にでも選ぶ方が結果的には前に進む」、という声もあります。

そうした部分があることは私も否定はしません。

ただし、日本が高度成長をしていた時代と現代は明らかに異なり、無理に決めた（または決められた）進路が実は大外れだった、となる可能性は十分にあります。

何よりも、高校生本人が納得しないと、長い人生で「あいつが余計なことを言ったから」と恨み言を言い続けることになりかねません。

○夢の副作用

ここまで、進路選択における夢の効用をご紹介しました。一方で、進路選択における夢には副作用も伴います。

現実逃避の手段となってしまうことです。

特定の職業を夢にした高校生はどうするでしょうか？

当然ながら、その夢のために努力します。スポーツ選手を目指すなら体力を付ける、小説家志望なら本をたくさん読む、声優志望なら演技の練習をする、とか。

ところが、そうした努力は地道なものです。地味だし、それができたからすごい、というわけでもありません。

そうしてだんだんと、夢を実現した後の自分を想像するようになります。ヒーローインタビューを受ける自分、歌番組に出演するときのトーク内容、授賞式での挨拶……。

こういうのは、多少は考えないとやっていられない、とも言えます。しかし、それもはなはだしいと、周囲からすれば痛々しいだけ^{*2}です。

とある小説家志望の高校生は、小説家になった後の授賞式挨拶だけではなく、どのようなコラムを書くのかなどについてもあれこれ考えていました。

そうしているうちに、彼は小説家になるためのトレーニングを段々とさぼるようになり、「小説家になった後のすごい自分」だけをやらたと夢想するようになりました。

さらに、勉強をさぼるようにもなり、大学受験も見事に失敗しましたとき。めでたし、めでたし。なんてことはありません。

この小説家志望の高校生とは、他の誰でもない、30年以上前の私です。

あのときに書いていたネタ帳ノートは実家のどこかにあるはずですが、あれを読み返す勇氣はちよつとありません。

○夢を進路と結びつけるかどうかの8分類

結局、高校生は進路選択において夢を軸に置くべきなのでしょうが、それとも、それ以外の要素で考えた方がいいのでしょうか？

一言で答えるならば、「その人次第」。だけど、それでは本書の意味がありません。

そこで、進路と夢の関連についての8分類を作成しました。

次のページのチャート図を試してみて、自分がどのカテゴリ・選択肢に当てはまるか、考えてみてください。

設問の補足をする、カテゴリ2の「学外の大会・コンテストなど」とは、インターハ

イ、国体（国民スポーツ大会）・県体、総文祭などの大会・コンクール、または、志望する職種に関連する大会・コンクール、新聞・テレビなどメディアでの紹介といったものです。要するに、高校の外でも評価されているかどうかを指します。

分類は、大きく4カテゴリーに分かれます。

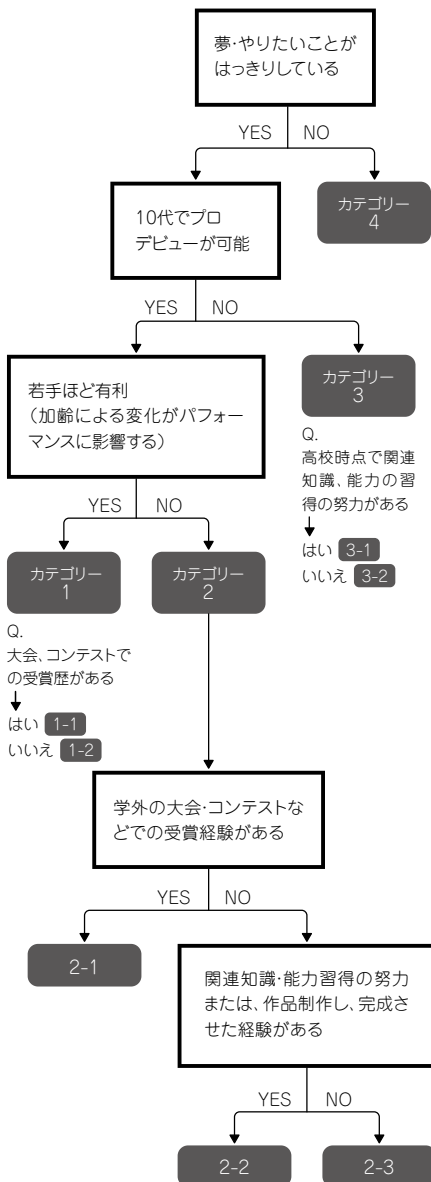
カテゴリー1は、10代でプロデビューが可能、かつ、若手ほど有利な（加齢による変化がパフォーマンスに影響する）もの。職業でいうと、音楽家やスポーツ選手、声優、俳優、アイドルなどが当てはまります。

カテゴリー2は、10代でプロデビューが可能、かつ、必ずしも若手が有利とは限らない（加齢による変化がパフォーマンスに影響しない）ものです。職業でいうと、小説家やお笑い芸人、飲食店経営者、漫画家、インフルエンサーなどです。

カテゴリー3は、10代でプロデビューはできない／ほとんどいないもの。職業でいうと、アナウンサーや医師、弁護士などです。

カテゴリー1～4は、それぞれ1～1から3～2まで、7タイプに分かれます。ここにカテゴリー4が入り、全8タイプとなります。

1-1、2-1、3-1に当てはまった人は、夢・やりたいことに沿って進路を選んだ方



が得をします。

2-2に当てはまった人は、大学進学を前提に、半分夢で進路を選んだ方が得をします。

1-2、2-3、3-2、4に当てはまった人は、夢以外の要素で進路を選んだ方が得をします。

以上を踏まえて、ここから各カテゴリーについて詳しく解説しながら、どうして夢・やりたいことで進路を選ぶと得・損をするのか説明していきます。もちろん、「夢以外の要素」とは何かについても解説します。

○家族や高校内の評価は問題外

それでは、カテゴリー1について。具体的には、音楽家、スポーツ選手、声優、俳優、アイドルなどです。

このカテゴリーは、本人の夢・志望もさることながら、才能・実力が大きく影響します。

棋士の藤井聡太^{ふじい そうた}さんは14歳2カ月という史上最年少でプロデビュー（四段昇格）しました。音

楽家のうち、バイオリニストは3〜4歳から始める人がほとんどです。スポーツ選手は、競技にかかわらず10代から活躍する選手が多くいます。声優や俳優、アイドルなどはなおさら

でしょう。

このカテゴリーは先述の通り、才能・実力があるかどうか、そしてその才能・実力を学校内外ともに認める人がいるかどうか重要です。

よく勘違いされるのですが、親や親せきの「才能ありそう」「向いていそう」などの評価は、ここでは問題外^{*3}です。

落とし穴は、学校の中での評価。

校内の大会で優勝した、歌が上手いことで有名、美男美女で通っている……。

これらの評価には、進路選びにおいては大きなリスクが存在します。

理由は簡単で、親や親せき、高校内の友人や教員はそのほとんどが単なる素人だからです。

素人目の「野球が上手そう」「声優の才能がありそう」などの評価は、その人の素質を判断するにはあまりにも信憑^{しんぴょうせい}性が薄いのです。

「地獄への道は善意で舗装されている」とはよく言ったものです。

「評価」において重要なのは、それが「高いレベルの環境の中での高い評価」なのか、「低いレベルの環境の中での高い評価」なのかということなのです。

では、本人が高いレベルにあるのかどうか、それを示すのが高校外での評価です。

野球なら甲子園、陸上などであれば国体・県体、文化系部活であれば総文連など。アイドル・声優であれば、大手事務所によるオーディションなども該当します。

こうした高校外での評価は、良くも悪くも評価する人間の思い入れがありません。「本当はちよつとうまい程度だけ褒めておこう」などの善意ありませんし、友人の変なやつかみ、妬みや思い込みもゼロ。

審査員が存在する大会・オーディションであれば、その分野で深い知見を持った専門家が判断を下します。大会以外でも、チームスカウトによる判断も同様です。

こうした専門家からすれば、自分の企業に利益が出るかどうか、チームであれば勝てるかどうかが最優先です。公平公正に判断するからこそ、10代でもプロデビューできる人材が出てきます。

もちろん、完全に公平公正というわけではなく、力関係やコネクションなどが介在するケースもあることは確かです。ただ、そうした点をもって「公平公正ではない、おかしい」と騒いでも生産的ではないことだけは指摘しておきます。

高校外での評価が高いということであれば、その分野でプロデビューしたいという夢は実現する可能性が高いと言えます。

○エヴァ声優「学校に行く時点で無理」

多くの高校生は夢と進路を結び付ける発想（または指導）から「関連の学校に進学すればいい」と考えてしまいます。

そして、それに応えるように、世の中には夢と進路を結び付ける宣伝が溢れています。そりゃそうです。彼らからすれば学生をいかに集めるかが重要です。そのためには、夢について煽った宣伝をしますし、例えば「入学したことでデビューできました」などの話を大きくアピールします。

こうした宣伝を真に受けた大量の高校生たちが、「学校に行けばどうにかなる」と勘違いして、安易に進路を決めてしまうことは少なくありません。

これに対して「学校に行く時点で無理」とぼつさり切り捨てているのが、『新世紀エヴァンゲリオン』や『幽☆遊☆白書』、『劇場版 呪術廻戦0』などで活躍している声優の緒方おがためぐみ恵美さんです。緒方さんは、あるインタビューでこうコメントしています。

「身もふたもないことを言うと、なりたいたいという人はほほなれないです。（中略）結局、そこ（声優の専門学校）に行けば何とかなるんでしょ、と思っっている段階でもうダメだと思う。声優に限って言えば、なりたいたい人がなる仕事ではなく、選ばれた人がなる仕事なんで、

っていう話をしています。選ばれた人しかなれないし、『じゃあ、それはどうするんですか?』って(聞かれると)、『あなたが選ばれる人だと思えますか?』と質問を返すわけです。すると、なんか『演技力は自信があります』みたいなことを言う人がよくいます。だけど、『冷静に考えてみてください。あなたから見て声優業界って今、どうですか?』って。

私が言うのも何ですけど、今はなりたい人が死ぬほどいるので、もちろん演技ができるのは前提として、やっぱり容姿も一定以上整っていないとまずい部分はあるし、それ以外に色んな趣味を持っていて何かに打ち込んでいる部分がないとダメだし、年齢が若くても、社会人として人とうまくやっていく才能がないとやっぱり難しいとか。

人間力とか容姿、演技力もちろんですけど、色々なものを兼ね備えて。1学年になりたいという人が数万人いるようですけど、その中の1番とか2番になれる要素がないとなれていないですよ。それが『選ばれる』^{*4}ということだから」

専門学校のほとんどが「夢をかなえよう」と宣伝する中、厳しい現実を伝える内容です。声優は「なりたい人がなる仕事ではなく、選ばれた人がなる仕事」。残酷かもしれませんが、これが夢の真実です。

声優に限らず、才能や実力が大きく影響するカテゴリー1の職種について、共通していえることでしょうか。

○夢と目標の違い

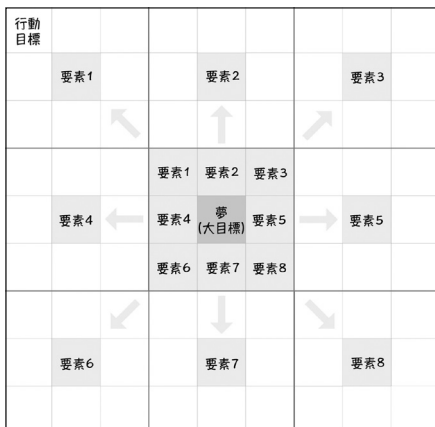
では、夢を持つことはダメなのでしょうか？

夢を実現したと言え、メジャーリーガーの大谷翔平おおたにしゅうへいさんです。

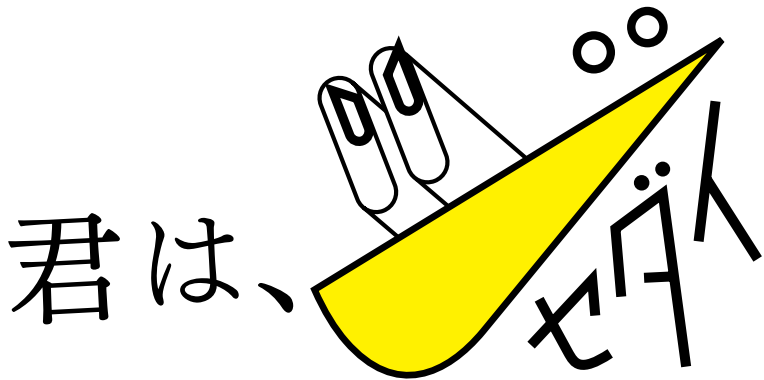
2013年にプロ野球の北海道日本ハムファイターズに入団、2017年オフにはメジャーリーグのロサンゼルス・エンゼルスに移籍。さらに2023年オフには、10年総額7億ドル(約1015億円)という巨額契約でロサンゼルス・ドジャースに移籍。

その活躍は、ニュース番組やワイドショーなどでもほぼ毎日のように取り上げられています。

日本人選手としてはほぼ前例のない、投手・野手の二刀流で活躍していることでも有名です。



マンダラチャートの書き方



君は、

ジセダイ

何と闘うか？

<https://ji-sedai.jp>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、**行動機会提案サイト**です。読む→考える→行動する。このサイクルを、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

ジセダイイベント

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!